オーディオ実験室収載

FIDATA HFAS1-S10 の導入(11)
―フォーマット違いの音源の試聴―

１．はじめに

前報(10)までに DSD, DXD, PCM の各種音源について試聴してきましたが、今回は元の演奏が同じでフォーマット違いの音源の試聴を行い、音質を比較します。また、ノイズの出方を比較するためにこのような比較試聴を行ってみました。

２．試聴条件

音源探索情報紹介【2015No.13】で紹介した PROSOUND の付録音源を使用します。音源として下記の 6 つのフォーマットで同時録音されたものが、PROSOUND の付録として DVD で提供されています。

①48KHz16bit
②96KHz24bit
③192 KHz24bit
④384 KHz32bit
⑤5.6MHzDSD
⑥11.2MHzDSD

上記 PROSOUND の付録音源を HFAS1-S10 にコピーし、Kinsky と Lumin アプリにより再生操作を行いました。HFAS1-S10 と micro iDSD は USB リベラメンテで接続します。HFAS1-S10 にはインシュレーターとしてインフラノイズの磁気浮上型マグナライザーを使用しています。今回は、前報(5)までの結果を踏まえて、micro iDSD の前に iPurifier2 を介在させ、HFAS1-S10 の電源ケーブルはパワーリベラメンテを使用しています。

再生ルートは次のようになります。

HFAS1-S10→iPurifier2→micro iDSD→TASCAM DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD

３．試聴結果

PCM 音源では、①48KHz16bit→②96KHz24bit→③192 KHz24bit→④384 KHz32bit の順にサンプリング周波数が高くなるほど、テクスチュアーが細かくなり、アンビエンスの音が豊かになっていきます。特に④384 KHz32bit では押し出しもよく、ジャズフアンにも受け入れられやすいように感じます。これらはいずれもノイズの発生はありませんでした。

一方、⑤5.6MHzDSD と⑥11.2MHzDSD は、ともに④384 KHz32bit とも違った独特のテクスチュアーと切れ味があり、特に⑥11.2MHzDSD はその傾向が強くなります。

⑤5.6MHzDSD と⑥11.2MHzDSD は DIFF の DSD 音源ですが、これまでの 5.6MHzDSD と 11.2MHzDSD の DSF 音源と同様にノイズの発生がみられました。さらに 2.8MHz の DIFF 音源と DSF 音源も追加して再生してみましたが、これらも同様にノイズの発生がみられました。

前報(10)までの結果を総合すると次のようになります。

・PCM は 44.1KHz から 192KHz までノイズなし
・352.8 KHz と 384 KHz の DXD もノイズなし
・DSD では 2.8MHz、5.6MHz および 11.2MHz の DSF はノイズ有りとなし
・DSD の 2.8MHz、5.6MHz および 11.2MHz の DIFF はノイズ有りとなし
・自前で録音したものは例外なくノイズがでるが、ダウンロード音源はノイズが出るものの出ないものがある。
・再生開始時にノイズが出るが、停止時には出ないもの、それと逆の場合もある。

なお、ダウンロード音源はほとんど DIFF ですが、自前で TASCAM DA-3000 により DSD 録音する場合は音質の好みから DSF としています。録音時やマスタリング時のフェードイン、フェードアウトにもよるのかもしれませんが、二次トラブルを避けるため、ファームウエアーの対策は可能かどうか、メーカーに問い合わせています。PC オーディオではどうかと同じ音源で再度確認してみたところ、そのような問題はありませんでした。HQPlayer では先読みしているようで、曲の途中で停止させると少し音が続いてから、すっと音が消えていきます。DSD 再生については、ASIO ドライバーが働いているところが違います。

DELA ではどうかいうことで、別の販売店で同じ DAC との組み合わせによりテストさせていただきましたら、やはり DSD 音源ではノイズが出ました。どうやら USB2.0 規格で DoP で送ることに共通の問題のようでファームウエアーの更新で対策が取られることを期待しています。こういったことは試聴会では触れられていませんし、オ

ーディオ誌の記事でも見ることはできません。

３．まとめ

PCM 音源のサンプリング周波数の違い、PCM 音源と DSD 音源の違いなどが克明に捉えられました。特に低周波数の PCM 音源でも粗さが目立たず、逆に音の、ず太さの魅力が感じられました。

ノイズについては、PCM 音源では問題ないものの、DSD 音源ではノイズが出ることが多く、その発生状況も複雑であることが分ってきました。

以上